「プロジェクトＹ」　『美しい憩いの丘～神武山～の再現を目指して』

福島県伊達郡川俣町立山木屋中学校

はじめに

山木屋地区は福島県北部、阿武隈山系の尾根部に位置している。夏は涼しく冬は寒さのとても厳しい土地であるが、自然に恵まれた緑豊かな地区である。産業においては農業が主で、特に葉たばこの生産が盛んである。

また、家族も三世代の家庭が多く、地域の結びつきが強いため、子供たちが豊かな人間性を培うためにふさわしい地域である。

そんな中で生活している本校生徒は４５名､「自学自習・博愛奉仕・不撓不屈」の教育目標のもとに、明るく伸び伸びとした学校生活を送っている。

１　取り組みのねらいや内容

(1)　活動の意義

現在ある神武山の姿に生徒一人一人が感性を生かし、触れるとともに、地域の人々の自然に対する考え方を知り、先人がどのような思いで憩いの場をつくり、神武山と共に生活してきたかを学習する。さらに、美しい神武山を知る年輩の方々の再生を望む気持ちや願いを感じ取り、再現に向けての体験活動を行う。

(2)　活動の視点

川俣町では、小学校・中学校・高等学校それぞれの発達段階に応じた人間性と社会性を育むために、「豊かな体験活動」を教育課程に位置づけ、日々の実践を進めている。その実践を進めるにあたって、次の共通した視点に立って推進することとした。

視点１　「人とのかかわり」を大切にする。
視点２　活動の連続を大切にする。
視点３　知の総合化としての学び方を大切にする。
視点４　一人一人の子供たちにとって必然性のある問題意識を紡ぎ出す。

上記の視点を本校としてどのようにとらえるかについて次のように考えてみた。

①　『「人とのかかわり」を大切にする』について

聞き取り調査では、特に地域の老人と話をする場面が多く考えられる。普段触れ合うことが少ない方々からお話を伺うことにより、人間的に大きく成長すると思われる。また、生徒たちは多くの知識を得て、課題解決の手がかりをつかむと考えられる。

②　『活動の連続性を大切にする』について

この活動は、過去の神武山を知り、これからの神武山をどのように再現していきたいかを全員で考えて行動に移していこうという意図で進めている。そこで、昔の神武山について地域の方に聞き取り調査を行いたいと考えた。そしてそれらを参考にして、このように再現させたいという思いを絵画や模型、コンピュータグラフィックで作成する。また、地域の方の参加で「神武山についてのシンポジウム」を行い、地域の方の思いと生徒の思いの交流を図る計画を立てた。その後は問題点を整理して解決すると共に、再現の具体的な内容、方法を計画し実践する。

③　『知の総合化としての学び方を大切にする』について

この活動は、本校の「総合的な学習の時間」とリンクさせて行う。つまり、この学習の中で教科で学習した基礎・基本を活用し「知の総合化」を意図的に行うことをねらった。

今年度の実施内容と教科との関係は以下の通りである。

国　　語　地域の方への聞き取り調査での諸活動と調査計画の作成、礼状作成、
　　神武山を題材とした俳句作成と書写、神武山シンポジウムの実践（全学年）
社　　会　神武山についての歴史の調査（全学年）
理　　科　桜の木の病原調査、山木屋の気候に合う桜の調査研究（２年生）
美　　術　再生した神武山の絵画作成（１年生）模型作成（２年生）
技術・家庭　再生した神武山のコンピュータグラフィック（３年生）

④　『一人一人の子供たちにとって必然性のある問題意識を紡ぎ出す』について

例えば、「神武山をどのように再現させるか」という課題についていろいろな方向から解決方法を考えることができる。生徒がそのためにはこんな方向から考えたいというものを話し合いの中から見いだし、それについて深く調査したり活動したりできるような仕掛けを練っていく。

2　教育課程上の位置づけ

本校では、年間７日間以上の活動が十分確保できる点、また、この活動が各教科・道徳・特別活動と密接な関連を持てるであろうという教育的価値を考慮して、この「豊かな体験活動」を総合的な学習の時間に位置づけた。（４４時間）

3　活動の概要

(1)　活動の経緯

月・時間・教科領域	活　動　内　容
４～　６月（１９時間） 総合的な学習の時間 （全　学　年）	○　神武山について調べよう ・　オリエンテーション ・　神武山について家族への聞き取り調査。 ・　家族に聞いてきたことを発表する。 ・　神武山の思い出を聞き（講師２名）昔の神武山を知る。 ・　地域の方への聞き取り調査を実施する。 ・　地域の方への聞き取り調査の発表会を行う。 ・　講師の方、地域の方への礼状作成。 ・　神武山についてのホームページ作成。
７～１２月（１５時間） 総合的な学習の時間 （全　学　年）	○　神武山の再生を考えよう ・　再生した神武山の姿を作り上げよう。 ・　神武山シンポジウム
７～１２月（１０時間） 総合的な学習の時間 （全　学　年）	○　神武山についての活動反省と今後の再生の見通し ・　活動の反省をしよう。 ・　来年度の再生に向けての活動の計画を立てよう。

(2)　活動の様子

①　神武山の思い出を聞くについて

家族から「神武山」についての情報を得て、それをまとめて発表する学習に続いて、地域の方を講師（２名）に迎えて「神武山」の思い出、遊び、植物等についての講話をいただいた。３０～５０年前の神武山の様子を具体的に知るとともに、質疑応答も積極的に行われた。これにより、昔の「神武山」をイメージし、再生に向けて意識が高まったと思われる。

② 地域の方への聞き取り調査について

さらに詳しい「神武山」の歴史、思い出、自然などの情報を得るため、地域のお年寄りに聞き取り調査を実施することにした。まず、アポイントの取り方について学習し、内容の決定後実際に聞き取り調査を行った。終了後は礼状の作成についての学習を行った。聞き取り調査の発表会では、各班ごとに聞いてきた「歴史」「自然」「遊び」などの内容についてデジタルカメラを用いて作成した写真なども交えて発表した。

③ 「神武山」のホームページ作成について

これまで学習してきた内容をまとめて、各学年各班ごとに「神武山」についてのホームページを作成することになった。本校では一昨年から地区の家庭だけで見ることができるイントラネットのホームページで学校の様子などを知らせている。その中に神武山のサイトを作成し掲示することにした。興味を持ってホームページを見ていただいた家庭も多く、神武山についての意識が少しずつ高まったと思われる。

④ 「再生した神武山を作り上げよう」について

各学年で絵画（１年生)、模型（２年生）コンピュータグラフィック（３年生）で再生した神武山を作り上げることにした。美術や技術・家庭科で学習した内容を踏まえて各学年ともいろいろなアイディアを出し合い作り上げていった。

⑤ 神武山シンポジウムについて

「プロジェクトＹ」『美しい憩いの丘～神武山～の再現を目指して』というテーマのもとに、シンポジウムを開催した。学校支援委員の方にパネリストをお願いし「これまでの学習の流れ」「神武山の思い出」「私たちの考えたこれからの神武山」「どうしたら神武山が再生できるか」などについて意見を交換した。地域の方も４０名ほど参加していただいた。

いくつかの問題点が出されたが、学校だけでなく地域でも考えていき、解決に向けて話し合っていこうという力強い意見が出された。シンポジウムが地域の方々の意識を呼び起こした一面もあり、また、地域の方々からの熱のこもった多くの意見には神武山に対する強い思いがあらわれていて、生徒一人一人の心に十分に伝わったようである。

4 活動の評価方法

(1) 評価の観点

① 学習活動への関心・意欲・態度

ア 課題や問題点、目標を決めることができる。

イ 学習したことを活用したり実践したりすることができる。

② 総合的な思考・判断

ア いろいろな考え方や知識を総合的に活用して考えたり判断したりすることができる。

イ 学習したことを活用して問題を解決しようとする。

③ 学習活動にかかる技能・表現

ア 学習活動を進めるために必要な技能や表現の仕方が身に付いている。

④ 知識を応用し総合する能力

ア 今まで学習した知識を総合的に活用して問題を解決することができる。

イ 問題解決の過程で気が付いたり考え出したりしたことを新しい知識としてまとめることができる。

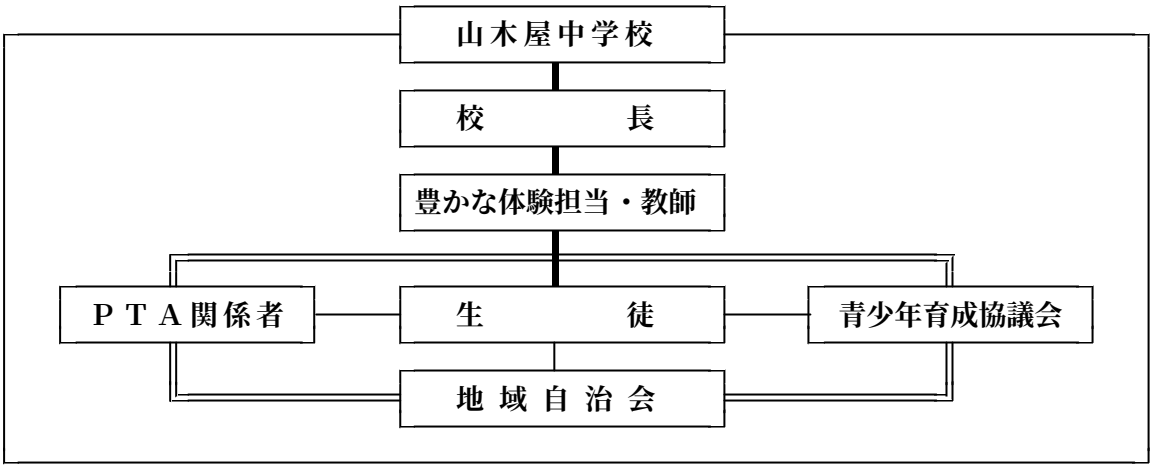
(2) 評価の方法

① 問題解決過程における取り組みの観察記録、報告書や作品の結果の考察、ワークシート等の記録の分析、自己評価や相互評価、学校支援委員の感想などから総合的に評価する。

② 「課題の設定→個人・グループでの活動→成果・問題点の共有と検討→課題の再設定」というサイクルの中で、それぞれ活用するワークシートや資料をポートフォリオを用いてまとめ、自分の学習の流れや問題点がわかるようにするとともに、書き込み等により教師の支援を得られるようにした。

５　学校支援委員会の組織・運営

(1)　学校支援委員会の組織



(2)　学校支援委員会の運営

４月当初に豊かな体験活動に関わる内容を支援していただく地域の方を委嘱した。年間活動計画をお渡しすると共に、活動前に具体的にどのような支援をいただくか打ち合わせを行った。

また、支援いただいた後に活動の様子についてご意見をいただいた。

６　推進地域としての取り組み

川俣町豊かな体験活動推進地域協議会を学識経験者、企業関係者、団体関係者、関係行政機関、推進校関係者から２３名で組織した。

(1)　第１回豊かな体験活動推進地域協議会（Ｈ１４．６．１７）

①　「豊かな体験活動推進」の趣旨について

②　協議会要項（会則）検討・役員選出（会長１、副会長２、事務局長１、副事務局長２）

③　「豊かな体験活動推進事業」の事例報告

④　今後の事業推進について

(2)　第２回豊かな体験活動推進地域協議会（Ｈ１４．８．　５）

①　講演　福島市教育実践センター所長

②　各校実践事例発表、指導助言

(3)　第３回豊かな体験活動推進地域協議会（Ｈ１４．１２．２４）

①　講演　福島市教育実践センター所長

②　今後の推進についての協議

７　活動の成果

(1)　聞き取り調査からシンポジウム、まとめまでの一連の学習において生徒主体の活動ができた。

(2)　教科等で身につけた知識や技能を生かした活動ができた。

(3)　シンポジウムでは地域のお年寄りの心を動かし、さらに生徒たちの課題解決意識を高めた。

８　今後の課題

(1)　自ら活動を進めて行くにあたり、課題を効率的に解決する力を身につけていけるよう、各教科の基礎的な力をさらにつけていく必要がある。

(2)　評価活動については評価の観点をより具体化・明確化していかなければならない。

おわりに

この体験活動を通して、生徒たちは数多くの知識や技能を得るとともに、豊かな人間性や社会性を育むことができた。今後も町内各校との連携を図りつつ、さらに豊かな体験活動に一層広がりを持たせて継続的に取り組んでいきたい。